

フーゴ・ヴォルフの「スペイン歌曲集」

〔 I 〕

在 原 章 子

スペイン歌曲集とその背景

ヴォルフの「スペイン歌曲集」は宗教的内容をもつ聖歌曲集10曲と世俗的内容をもつ世俗歌曲集34曲からなっている。

この歌詞の原本はエマヌエル・ガイベルとパウル・ハイゼの独訳により1852年に出版された「スペインの歌の本」である。これらの詩は14世紀から17世紀のスペインのあらゆる階層の人々の詩が収められ、その内容は宗教的なもの、人生、恋愛などさまざまなものが含まれている。そのうち多数は作者不詳であり、ロペ・デ・ベガ、セルバンテス、ファン・ルイス、ホセ・デ・バルデビエルソ他数人の名を知られた詩人がいるのみである。

作者不詳の詩のうち近年、スペイン歌曲の代表的研究者になっているミゲル・サネッティにより世俗歌曲第26曲 *Bedekt mich mit Blumen* がマリア・ドセオ作詩であり第30曲 *Wertat deinem Fuß lein weh?* はカタランで作詩されたことが判明したと1971年に書かれたエリック・ヴェルバ著「Hugo Wolf oder Der zornige Romantiker」の *wer sein holdes Lieberlren* の項に記されている。

この「スペイン歌曲集」が出版された時には多くの作曲家が関心を示し、シューマン、ブラームスなどもこの詩による歌曲をのこしている。外国の詩や文学を翻訳することは19Cのドイツでの流行であったが、常にすぐれた詩のみを求めたヴォルフが、このようなものを取り上げたのは、異国的なもの、南国、ラテンの世界へのあこがれ、スペインへの関心をぬきにしては考えられない。ゲーテ、モーツァルトのイタリア体験、地中海の世界体験にもみられるように、ドイツ人にとってその明るさ、解放感、太陽などに対する強い憧憬のあらわれとみることが出来る。

さらにヴォルフが民俗音楽の楽譜類に関心を抱いていたことは、1897年に書かれた手紙が示しているが、音楽的にもこの曲集、さらにこのあとに続く「イタリア歌曲集」において舞踏のリズム、旋律の定式、ギターとマンドリン風の伴奏による民俗的色彩などに色濃くあらわれている。

ヴォルフは敬虔なキリスト者ではなかったが、自制心の強い禁欲的な性格であり、罪と罪深さの感情で苦しんでいた。

この聖歌曲集にとりあげた詩の中の、スペインカソリックのきびしい掟の中で祈る罪人達の姿の中に、自分自身を見い出していたと思われる。

これら宗教的内容をもつ歌曲は、舞台と聴衆を考えて作られたものではないと言える。自己

の本質と相似した聖歌曲集、自意識を解放することにより世俗歌曲の悦楽（愉悦的なもの）の世界へ参入していったのであるが、肉体的消耗はあまりに激しく、しだいに精神と肉体のバランスを失っていったのである。

1889年10月18日世俗歌曲第7曲 *We sein holdes Lieb verloren* の作曲からはじめられ、インスピレーションにあふれながらも貧窮の中で作曲は中断をくり返ししながら、1890年4月27日世俗歌曲第33曲 *Wehe der die mir verstrickte meinem Geliebten!* の完成をもって「スペイン歌曲集」全44曲は完結したのである。

この曲集はその多様性においては「イタリア歌曲集」をはるかにしのいでいるが、「イタリア歌曲集」へむかう過渡的作品であるということが出来る。

ヴォルフの演奏指示について

ヴォルフの演奏指示は他のどのリート作曲家と比べてもその範囲が非常に広く多彩であり、デリケートな表現を用いてその指示を与えている。ピアノに対するものは従来の楽語を用いているが、歌唱部に対しての発想記号の全てはドイツ語である。dolce (Pianoforte) → zart (Singstimme) のごとくである。「スペイン歌曲集」中の聖歌曲はゆっくりした動きのものがほとんどであるが、その10曲の曲頭の指示をみるだけでもそのデリケートさを知ることが出来る。

一部を挙げてみると、Langsam und ruhig. Sehr Langsam und getragen. Sehr getragen und schwer.

世俗歌曲においてはより多彩である。Bewegt (昂興) の種類を示すニュアンスとして、Etwas bewegt. Ziemlich bewegt. Leich bewegt.

感情の性格を表わすものとして、innig, zart, sanft, を非常に多く用いている。Sehr langsam und zart. Sanft fließend. Sehr langsam und innig. 等である。

また、Eilig und heftig. Traumhaft. Langsam und mit Humor. Bacchantisch 等ほんの一部であるが曲頭の指示としては多彩というほかない。

その他 ver klingend, hengebend, wie im Traum, hohmisch, 等のように声の種類、その色の指示に関するものなどほんの数回、あるいは1回のみ用いられているものもある。

調性について

ヴォルフは原則としてどんな移調にも反対であったといわれる。最も多く用いられているのは、A dur, a moll, F dur, g moll, である。調号の多い調はまれにしか用いず、それによりその調に特異な価値を与えている。「スペイン歌曲集」の場合、h moll を8回用いているが他の曲集においては全体でただ2回のみ用いられている。

Geistliche Lieder

第一曲 Nun bin ich dein <今こそ私はあなたのもの>

原詩 フェン・ルイス ハイゼ訳

作曲 1890年1月15日

「スペイン歌曲集」中最古の詩と思われ、1300年頃生まれたフェン・ルイスの作詩である。罪をおかした者が聖母マリアに救いを求める心の不安をうたっている。

この聖歌曲集中でとりあげられているマリア崇拜^(註)の詩は異教徒にとっては感覚的につかみにくい、この神秘的なものと、マリアを永遠に女性的なものとしている面を含めた、マリアへの愛をうたいあげているといえる。

譜例1

Langsam und sehr innig.

Singstimme.

Nun bin ich dein, du al-ler Blumen Blu-me, und sing'allein all-

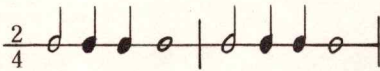
Pianoforte.

stund zu dei-nem Ruh - - me; will eif-rig sein, mich dir zu

宗教的典礼の調性である F dur で、非常にゆっくりと“Nun bin ich dein” <今こそ私はあなたのもの>でこの「スペイン歌曲集」の聖歌曲第一曲がはじまる。

ピアノにより曲全体がほぼ一定のリズムをきざんでいる。(譜例1のピアノパート)

註 マリア崇拜 はじめマリア自身が神聖な存在と考えられていなかったが、救世主の母として崇拜され次第に童貞マリアは神秘的な存在となり、さらにマリア自身ほとんど神として崇拜されるようになった。(三輪福松著「神話と聖書」より)



このリズムのくり返しが罪人の苦悩の心を表わしている。旋律の流れはゆったりとした祈りを唱えるようなひびきを半音階が支配し、全体として官能的とさえいえる。苦痛にみちた愛情や敬神のリートにおいて、半音階法は特に支配的である。

はじめの4小節のフレーズの中に、一気にマリアへの強い愛の告白を歌いあげる。(譜例1) deinem Ruhme; Frau, auserlesen, Zu dir steht all mein Hoffen, これらマリアを称える全ての二点へ音は、ふくらみのある美しい言葉と整えられた声によりうたわれるべきである。

譜例 2

Mir bangt so sehr, bald To - -

-denschlaf zu schla - fen. Tritt du ein - her, und durch das

Meer o füh - re mich zum Ha - fen!

Dynamic markings: *pp*, *p*, *f*, *dim.*, *pp*

Mir bangt ~ mich zum Hafen! <まもなく訪れる死の眠りに心はふるえおののいている> 救いへの不安をうたっているが、罪人が救いあるいは生へのかすかな光を見、祈りの中

に救いが暗示されている部分として、直接的、感情的な表現（オーバーな表現といいかえてもよい）は極力さけたい。

O führe mich zum Hafen. /（譜例2） 罪人の全てのいのりを zum Hafen. /の一語にこめて。（天の港こそ罪人の心のやすらぎの場である。） 死への距離を感じることのできるわずかな余裕の部分に官能的といえる音楽を聞くことができる。

バリトンのディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウはこの曲中唯一、zum Hafen. /の部分に portamento を用いている。（譜例2）

マリアに対する憧憬、そして救いを求める訴え、そこに罪に対する悔悛と救済へのあこがれを見、そして聞くのである。

第二曲 Die du Gott gebarst <神を生みたもうたあなた>

原詩 ニコラス・ヌニェス ハイゼ訳

作曲 1889年11月5日

第一曲同様マリア崇拜と救いへの不安をうたっている。しかし第一曲より死へ確実に近づいている緊張感の高さがあり、甘美さは消え焦躁感にみちている。

譜例3

Langsam und sehr innig.

Die du Gott ge - - barst, du

Rei - - ne,

3つに分けられた2拍子。歌2分の2拍子。ピアノの右手4分の6拍子。左手2分の2拍子。そして短2度の上行と下行が曲全体を支配している。（譜例3）

譜例 4

The image shows a musical score for a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is written on a single staff with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The lyrics are: "Her - - - rin, ganz zu dir mich wen - - de,". The piano accompaniment is written on two staves (treble and bass clefs) and consists of four measures. Each measure begins with a dynamic marking of *sf* (sforzando) followed by *p* (piano). The piano part features a series of chords that move downwards, creating a sense of tension and unease.

心の切迫感と不安感をあたかも死への足音のごとく表現している。(譜例4ピアノパート)
 Herrin~ dieses Grauen<聖母よ私の総てを捧げますのでこの苦悩と恐怖を終らせて下さい>
 ピアノの不協和音にのり、しだいに下行する ende diese Qual und dieses Grauen, この
 間の一音一音に罪人の願望の重みをつけて, furchtlos<おそれることなく>の旋律の高みへ
 と緊張感をそこなうことなく持っていく。つづく Und nicht~Himmelsauen, の下行旋律
 は *molt legatissimo* が要求される。

死への切迫感とマリアへの心の救いへの憧れの表現を, 生(なま)の感情表現にならぬよう
 注意すべきである。

第三曲 Nun wandre, Maria <歩め・マリア>

原 詩 オカーニャ ハイゼ訳

作 曲 1889年11月4日

聖歌曲集中最もすぐれたものの一つである。<聖ヨセフのうたえる>の副題がついている。
 新約聖書ルカ伝福音書第2章1節~5節に「人みな戸籍に著かんとして各自その故郷へ帰り、
 ヨセフもダビデの家系また血統なれば、既に孕める許嫁の妻マリアとともに戸籍につかんとし
 てガリラヤの町ナザレを出でてユダヤにのぼり、ダビデの町ベツレヘムというところに到りぬ
 とあり、これに基づいた詩である。宗教歌曲ではあるが、ヨセフもマリアも極めて人間的にあ
 つかわれており、ヨセフの身重の妻への深い愛情といたわりにみちている。

ピアノの右手の3度平行がマリアをはげましながらベツレヘムへむかう二人の苦しい歩みを、
 そして左手のオクターヴ、5度、6度はその疲労と足どりの重さを表わしている。この部分の
 平行3度は非常にレガートに奏されるべきである。(譜例5)

Wohl seh ich, ~ Ach, kaum verwinden. <どんなにあなたが疲れきって苦しみに耐え
 ているのか私にはわかる>(譜例6) ヨセフのマリアに対する深い愛情に満ちたはげましの
 言葉が、語る言葉の抑揚をもって表現されている。

譜例6の部分は言葉、旋律としてのみとらえずに、ピアノの左手の不協和音によって示され
 るヨセフの深い心痛の和音に感応すべきである。歌の部分の音の飛躍、シンコペーションにヨ

譜例 5

Langsam und ruhig.

p

Nun

wan - dre, Ma - ri - a, nun wan - dre nur fort. Schon

pp

譜例 6

Wohl seh ich, Her - rin, die Kraft dir schwin - den;

mf

kann dei - ne Schmer - zen, ach, kaum ver - win - den.

p

セフの心情を、さらに *ach kaum verwinden* <あゝ 耐えられない>は、マリアへのはげましの言葉に満ちている中で、ヨセフの心痛の高まりからその心情を吐露したただ一つの言葉として、ヨセフの実感をこめてうたわれるべきである。(語ると言い換えてもよい) この曲の一つの山であり人間的愛情に満ちた部分である。(譜例6)

Nah ist der Ort <その地は近い>はほぼ同じ音形が、二人の苦しい歩みがベツレヘムへと近づいている時間的経過と、はげましの言葉の高まりを、音の高さ強さの変化で示している。

譜例 7A

krä - - hen die Häh - - ne und nah ist der Ort. Nun

譜例 7B

krä - hen die Häh - ne und nah ist der Ort. _____

譜例 7C

Schonkräh'n die Häh - ne und nah ist der Ort. _____

3度の進行及び旋律線の nah ist der Ort への進行に注意。特に譜例7Cの Fis への全音の巾が決して狭くならないように充分な音程の余裕をもち、nah~の部分かとび出してバランスを乱すことのないようにうたいついで行く。音色としては期待を感じさせる明るめの声で4拍を十分にひびかせる。

譜例7Cにつづく旋律はキリスト生誕に対する畏敬の念も含まれ、非常に静かで優しくふくらみのある表現が要求される。

譜例 8

(wie aus weiter Ferne.)
 Krä - hen die Häh - ne, komm! Nah ist der Ort.
 pp dim. ppp

二人の歩みがだんだん遠ざかって行く。(譜例8) 心理的進行と行程の描写が音画的になされている。アッシジの聖フランチェスコ寺院のジョットの壁画がこの場面のイメージを具体的に与えてくれる。又、ルネッサンスの宗教画の数々がこの曲のイメージと雰囲気伝えてくれる。

男声のための歌曲であるが、ソプラノのエリザベート・シュワルツコップフやエリザベート・シューマンの演奏をレコードで聴くことが出来る。〈聖ヨセフのうたえる〉とありながらも、ヨセフの思いやりの心、人間的なあたたかみを強く感ずるこの歌曲は、女性の声をもってしても十分に演奏の可能なものである。

第四曲 Die ihr schwebet um diese Palmen <風にただよう天使達よ>

原詩 ローベ・デ・ペーガ ガイベル訳

作曲 1889年11月5日

幼子イエスの眠りを風のざわめきから守ろうと天使に願うマリアの気持をうたったものである。棕櫚の葉ずれの音と天使のとびかう翼の音がピアノの右手の16分音符により奏される。

譜例 9

The image shows a musical score for a piece in G major, 4/4 time. The tempo is marked 'Ziemlich bewegt.' and the dynamics range from *pp* to *p*. The score includes a vocal line and piano accompaniment. The lyrics are: 'Die ihr schwe - - bet um die - se Pal - - - men in Nacht und Wind,'. The piano accompaniment features a rhythmic pattern of sixteenth notes in the right hand and a more melodic line in the left hand.

風のざわめき、葉ずれの音をあいだに左手のピアノの上行音形と歌との対話が静かにはじまる。(譜例9)

梢のざわめき、風のうなりの高まりとともに、マリアのかすかな心の不安を感じさせるピアノの左手のオクターヴ、歌唱部の緊張感のただよう二点嬰へを中心とした旋律の動きへ進む。(譜例10)

2節と4節の風を表現している転調の部分のFis、Gを中心とした半音の動きは、音のみの連続にならぬよう(ひびきだけになりやすい)、充分な余裕をもって言葉が発音されるようテクニック面でのトレーニングも必要である。(一部譜例10)

Der Himmelsknabe ~ Vom Leid der Erde の節は神の御子の、生への不安の描写を、お

さえた音量のなかで行う。

譜例 10

Ihr Pal - men

von Beth - - - le - hem im Win - - des -

Ach, wie so müd er ward の表現、特に so müd の言葉のあつかいを注意深く行いたい。

全体的には幼子を静かにねむらせたいというマリアのやさしさにあふれている。言葉の扱いや声の色等楽譜の指示の範囲のみにとどめ、特に技巧的、感傷的表現のないように注意すべきである。

三和音の進行、ピアノの左手とうたの対話はシューベルト的といわれているが、特にピアノパートの劇的なもり上りや、その中に不安を感じさせる音の扱いは、聖母子の未来を暗示するかのようでもあり、又その部分にいかにもヴォルフの神経が現われているともいえる。ウフィッツィ美術館のフィリップ・リッピの〈聖母と子供〉のマリアの、幼子の不幸への予感、又、風をなだめる幼子への愛撫、あふれるやさしさ等は、ムリリョ、初期のラファエロの聖母子の絵画にそのイメージを求めることが出来る。

引用・参考文献

- ハロルド・C・ショーンバーグ著 大作曲家の生涯(中) 昭和53年1月5日 共同通信社。
- エルンスト・デチャイ著 フーゴ・ヴォルフの生涯と歌曲 昭和41年12月1日 音楽之友社。
- ジェラルド・ムーア著 歌手と伴奏者 昭和35年4月15日 音楽之友社。

- 新約聖書
- 三輪福松 神話と聖書 昭和47年10月 美術出版社。
- Erik Werba Hugo Wolf oder Der Zornige Romantiker.
- Hugo Wolf Gesamtausgabe "Spanisches Liederbuch" Musik wissenschaftlicher verlag.
- 標準音楽辞典 昭和41年4月25日 音楽之友社。
- ヴァルター・ヴィオーラ著 ドイツ・リートの歴史と美学 昭和48年10月1日 音楽之友社。